

# aae 2017

Dept. of Architecture and Architectural Engineering, Kagoshima University.

鹿児島大学工学部建築学科

2017年度 学生設計課題

レストハウス

住宅

診療所

リノベーション

美術館

小学校

集合住宅

フェリーターミナル

劇場

卒業設計

第60回建築展「hangarchitecture」

## 前期合同講評会

## 2017年度受賞歴



日時：2017年10月7日（土）

場所：稲盛会館

ゲストクリティーク：建築家 柳沢潤先生

題目：「公共への試み」



第11回 AOI 会設計優秀賞  
1年生 今村萌絵 岩田有哉  
2年生 久保田美咲 長田亮平  
3年生 佐藤由奈 安長瑠人

平成29年度日本建築家協会鹿児島会賞 卒業設計  
金賞  
高木香織 「カワドコ」  
銀賞  
脇田佳 「ひと・まち・芸術をつなぐ」  
銅賞  
橋口里奈  
吉原佳代

都市住宅学会九州支部 優秀学生賞 橋口里奈

形態創生コンテスト2017「コロキウム構造形態の解析と創生2017」  
最優秀賞 稲垣伸一・宇都宮尋史・中山創

2017年度日本建築学会設計競技「地域の素材から立ち現れる建築」  
九州支部入選 本山翔伍・佐々木麻結・北之園裕子・松田寛敬  
上村佳子・坂元利伎・高尾奈緒・中尾有希

第3回ウッドフレンズ住宅設計アイデアコンペ「都市における小住宅」  
入選 中尾有希

## 後期合同講評会



日時：2018年2月16日（金）

場所：稲盛会館

ゲストクリティーク：建築家 西沢大良先生

題目：「現代建築のつくり方」



近代建築掲載  
田村健太郎

日本建築学会九州支部 支部長賞 脇田佳

日本コンクリート工学協会 九州支部長賞 西谷政彦  
内村考兵

日本都市計画学会九州支部 支部長賞 東田喜見  
空調和衛生工学会 振興賞学生賞 佐藤龍義

鹿児島大学工学部建築学科 建築設計作品集 aae vol 14

<http://aae.aae.kagoshima-u.ac.jp/>  
[office@aae.kagoshima-u.ac.jp](mailto:office@aae.kagoshima-u.ac.jp)

編集 脇田 佳（鹿児島大学大学院理工学研究科博士前期課程1年）

監修 鹿児島大学工学部建築学科

□レストハウス



(設計概要)

敷地: 鹿児島市高麗町・甲突川右岸緑地  
(武之橋南詰西側)  
敷地面積: 約 216 m<sup>2</sup>  
要求機能: 事務空間 (約 20 m<sup>2</sup>)  
休憩・展示空間 (約 50 m<sup>2</sup>)  
その他屋外設備 駐輪場  
(レンタサイクル 5 台分)



休憩する「目的」として使用されるレストハウスに、自然を感じるための「手段」としての役割も持たせた。両方の役割を持たせた階段で自分のお気に入りの自然の姿を探してほしいと思設計した。

2017年度 第60回 建築展



海を眺めた時、草原に寝転んだ時。心は休息を得る。なぜなら自分が自然の流れの一部だと実感しているからだ。ここは、大地と一体化したレストハウス。丘の様な屋根に登って川を眺め、斜面に寝転がろう。地面の下に潜り草花を見上げよう



甲突川と桜島を一望できるというこの敷地の特徴を活かし、風景を楽しみながらリラックスできるような空間を意識した。庭に立った時に感じる圧迫感、閉塞感を無くすようにデッキの床を上げ、桜島に向かって広がるような勾配を屋根に付けた。

「hangarchitecture～日常の見れた風景を変える～」



「hangarchitecture～日常の見れた風景を変える～」をテーマとして、日常的にあるものの用を、視点を変えて普段とは違う用途として建築的観点から提案します。



建築設計Ⅱ / 2年生後期前半課題

□リノベーション



(設計概要)

敷地：鹿児島市中央町8-2

地域地区：商業地域、容積率400%、

建ぺい率80%、

防火地域、駐車場整備地区

敷地面積：約1767.93㎡

要求機能：歴史的建築である日本ガス本社(1931年竣工)を、リビングヘリテージとして使い続ける。内部更新や新たな用途を提案する。

廻音

相木 雅史



屋上に公園、地下にフットサルコートとフィットネスルームを設け日本ガスに用事のない人でも立ち寄り、健康の保持増進を期待するオフィス。スロープで繋ぎインフォーマルコミュニケーションを誘発、訪れを感じる。

みせるオフィス

萬藤 大雅



現在の日本ガス本社裏の道には活気がない。そこで、既存の建物を一部切断し、増築した木造オフィスとの間に広場を設けた。この広場を通して新たなまちがカタチづくられていくことが期待される。

寄り添うオフィス

長田 亮平



既存建築の周辺に樹木を、地上には起伏ある公園を、各階屋上には緑化された屋上をと、緑のシークエンスをつくることで都市公園問題に適応したオフィス建築の提案。オープンな空間に「こども食堂」を設けオフィスの従業員とこどもとの関わりからこどもの人間的成長を図る。

建築設計Ⅱ / 2年生後期後半課題

□美術館



(設計概要)

敷地：鹿児島市易居町、本港新町

敷地面積：8832㎡

地域地区：準工業地域、容積率200%

建ぺい率60%

要求機能：展示するアーティスト及び作品6点を展示し、その作品のための空間を設計する。

accessible art place

久保田 未咲



点在する四つの箱には有料の展示室、それを囲む空間には居酒屋やカフェ、アトリエなどを配置する。非日常的空間と日常的空間は完全には分離せず、かつ互いを邪魔することなく共存する。

アツマリ、ソシテナガレル

柴田 南



美術館の非日常的空間を解消し、ただ人がアツマルだけでなく人がナガレルような交差点のような建築を目指した。2つの円の中心に人が集まるように平・立面上で中心にすばるように設計した。

水際

前 綜一郎



大きな野外展示物を中心としそれを包むように平面を、高さのある展示物を中心にして高さを決めるなど作品に沿って設計した。海、空、ガラス、緑の組み合わせが美しい立地だと感じ、人が涼しげに鑑賞できる空間を目指した。

建築設計 I / 2年生前期前半課題

海に臨むウッドデッキハウス

真廣 涉

克灰住宅

只野 信幸

□住宅

(都市)



(田園)



(設計概要)

敷地：(都市) 鹿児島市東千石町  
 (田園) 鹿児島市桜島小池町  
 敷地面積：(都市) 70㎡  
 (田園) 266㎡+56㎡  
 要求機能：構造 / 各自設定  
 規模 / 各自設定  
 駐車場、駐輪場等も設定自由  
 家族構成：1世帯 (夫婦+子供2人)



桜島では長屋の住宅が多く長屋の住宅を設計した。敷地全体をウッドデッキにすることで田園らしさを意識した。土間を設けることによりウッドデッキへのアクセスしやすくした。ガラスを多用することで桜島からの景観を眺めることができる。



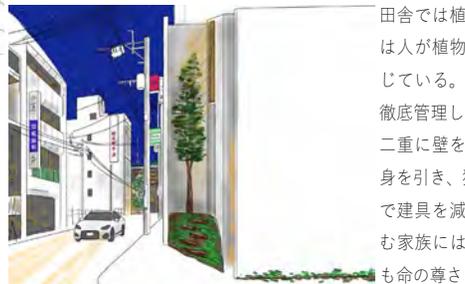
火山灰を始めとした火山活動による支障を最大限に抑えることで、自然の豊かさを感じられる住宅が出来ると考えた。火山灰を集める形状の屋根や、火山灰の付着を防ぐ内側に切り込んだ壁面などは、そのまま特徴的な外観として現れている。

森を飼う家

園田 真子

箱を積む

吉本 晃城



田舎では植物に人が順応して生活し、都会では人が植物を管理して生活する。私はそう感じている。だから、この住宅では人が植物を徹底管理しながら生活することを目指した。二重に壁を設けることで都会の喧騒から少し身を引き、狭いながらもステップフロアの内装で建具を減らし開放感を持たせた。ここに住む家族には、植物を「飼う」面倒さも楽しさも命の尊さも…様々な感じて暮らしてほしい。



都市中の住宅として、狭い敷地の中でいかに1階を地域に開きつつ、生活に必要なものを整理できるかを考えた。地域への関わりとして茶室を、収納として構造と一体化した鉄骨の箱を用意した。



建築設計 I / 2年生前期後半課題

喧騒から守る診療所

小川 倫正

Revitalization Ship

長田 亮平

□診療所



(設計概要)

敷地：鹿児島市鴨池新町 1-1-2 3  
 地域地区：商業地域、容積率 600%  
 建ぺい率 80%  
 防火地域、駐車場整備地区  
 敷地面積：約 5500㎡  
 要求機能：診療所 (内科)  
 構造 / 各自設定  
 駐車場、駐輪場等も設定自由  
 その他 / 法面の使用は各自検討する



周辺の騒音から利用者を守りつつ、光を取り入れるために、筒を倒した形から上下左右にずらしている。また、騒音は駐車場からも発生しているので、診療所の機能は2階から上に設けている。



診療所らしくない形態と空間を「船」を模した建築に落とし込み、気軽に立ち寄れる診療所にした提案。診療空間で身体の健康を、医療本の図書スペースで予防医学をと心身ともに健康であることを誘発させる診療所としている。

町と共に生きる

久保田 未咲

TREE CLINIC

木和田 有美



町の人に親しまれる居心地の良い診療所。通院・入院しなくなるクリニック。自然によって患者へ癒しを与えたいと考え、敷地南側に森にし、カフェや図書コーナー、パン屋を設けるこつりーハウス状の病室とした。森の上部は病室、下部は利用者と地域の人の場として解放。診療所と地域の架け橋となる森だ。



建築設計Ⅳ / 3年生後期前半課題

集合住宅



(設計概要)

敷地：熊本郡屋久島町一奏字松山 2288  
 地域地区：近隣商業地域  
 敷地面積：約 34,000 m<sup>2</sup>  
 要求機能：集合住宅  
 (集落の未来に貢献する居住地として)

らしさの住みこなし



Speculative Village



佐藤 由奈

住む人々によって住みこなされ、住民にとっていきいきとしたものであるように。  
 地域 'らしさ' 住民 'らしさ' を出しながら、お互いの暮らしを支えあうコミュニティとなるように。  
 一湊ならではの温かみを感じることができる集合住宅へ。

番屋街の長屋 - 一湊から六湊へ -



安長 瑠人

古くから漁業の町として栄えた一湊。加工技術が盛んであるが、離島という土地柄、伝統的な産業の衰退を迎えている。この問題を、番屋という漁師の集会所から再定義し、六次産業を一湊から展開する集合住宅である。

徳田 優志

近年、情報通信技術がもたらした一要素として、人は場所を選ばずにどこでも仕事をできるようになり、都市に住む必要性というも薄れてきたのではないだろうか。そこで、この自然豊かな屋久島の一湊の地に新たな生き方(働き方)できる村を提案する。

暮らしのオフィス



柴田 隆詠

ここに単なるオフィスというものを設けることなく、自然豊かな建築空間の中で仕事ができないかと考えた。  
 建築をカーブさせることで、視点によっては多様な風景を作り出し、囲われた空間が広場となる。

建築設計Ⅳ / 3年生後期後半課題

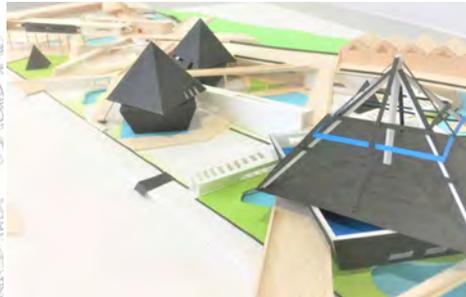
劇場



(設計概要)

敷地：鹿児島市加治屋町 20-17  
 地域地区：商業地域、容積率 500%、建ぺい率 80%、防火地域、駐車場整備地区  
 敷地面積：約 11,880 m<sup>2</sup>  
 要求機能：600人以上のホール及びホール関係諸室、別用途の 1000 m<sup>2</sup>以上の公共施設の計画。

クロス



奏でる空間、叶える空間

後藤 隆誠

- 建物形態を“黒(クロ)の菱形”という色・形を象徴性のある要素同士をぶつけ合わせ来訪者の記憶に残り続ける建築に - 建物要素×自然要素×来訪者の滞留位置・動線・視線の多種ある要素を“クロス”させ合わせ「形」本来の持つ可能性と魅力を引き出した建築に -

THE MUSIC "HOUSE" OF THE SPHERES



森山 陽介

雄大な桜島のごとく、譜面を駆け上がるグリッサンドのごとく、その内なる大地のエネルギーを求めた。人々は天球のシンフォニーの一奏者である大地(桜島)の姿を見に、そして音楽の家(劇場)に立ち寄ることだろう。

弓 尚樹

鹿児島市のメインストリートとも言える、天文館から続くアーケード街の終点となるべく、夢の舞台、始発点となるアートストリートを提案する。

能を学ぶ遊歩道



吉村 麻

敷地であるドルフィンポートから景色眺めたとき、海と桜島が背景に映る能舞台があったら素敵だなと考え、設計した。劇場・ドルフィンポートを歩きながら美しい景色とともに能楽を学ぶことができる施設を計画する。

### 建築設計Ⅲ / 3年生前期前半課題

#### □小学校



### 本を囲む学び舎



#### 町舎



### 大脇 由里加

図書室を学校の中心に配置することで児童は登校や移動教室で図書室を通り、自然と本に手を伸ばすきっかけになります。また様々な形の平面と屋根をもち、空間自体を楽しむことができます。特別教室は1つにまとめることで多様な授業を期待します。

### コリドールが繋ぐもの



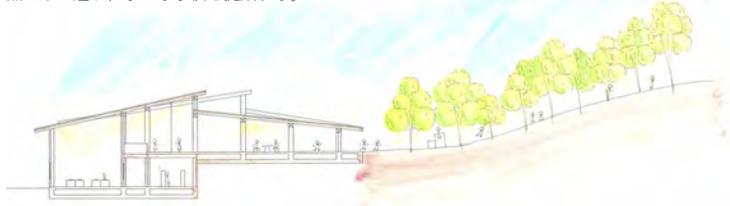
#### 森は遊び場・学びの場

敷地の南側に広がる豊かな森と教室を繋げることで、教室からそのまま森へ行くことができる。また、廊下はなく各教室の向かいにオープンスペースを設けた。子どもたちが森を身近に感じ自然の中で遊び、学べる学校を提案する。

### 作取 徹

降灰の影響が大きい桜島という環境で外に開けた開放的な空間を作る事を考え提案した。半屋外空間の廊下(コリドール)が各部屋をつなぎ、土足制とすることで廊下のどこからでも出入りすることができる。またコリドールが内部空間とのワンクッションとなり、灰の影響を感じさせないよう考えた。

#### 瀬戸 まりな



#### (設計概要)

敷地：鹿児島市桜島松浦町 355 (鹿児島市立桜峰小学校)  
 地域地区：指定なし  
 敷地面積：11,297 m<sup>2</sup>  
 要求機能：普通教室、メディア部門、特別教室、体育施設、管理諸室、生活・交流空間

### 建築設計Ⅲ / 3年生前期後半課題

#### □フェリーターミナル



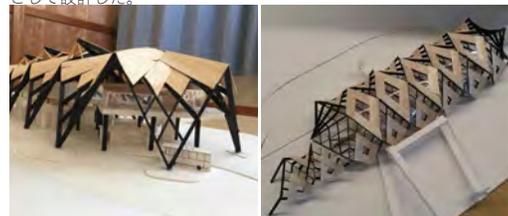
### 軸上の呼応

鶴丸城、鹿児島港、桜島港、桜島山頂の4点を通る都市軸を設定し、両岸の呼応を図る。軸線を中心に鹿児島側には巨大なボリュームを置くことで桜島と対峙し、桜島側にはヴォイドを持つ建築を置くことで軸上を切り取る輪郭を持ち合わせ、桜島の象徴性を引き立てる。

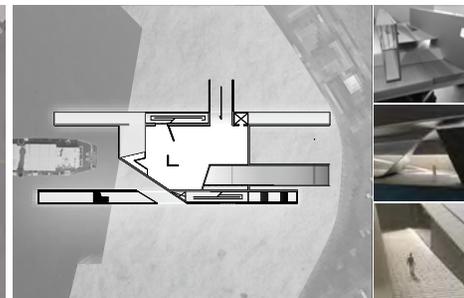


### combination shell

HP シェルを組み合わせてできる大架構の中にターミナルが入れ子となることを基本コンセプトとした。交通の拠点となるシンボルとして設計した。

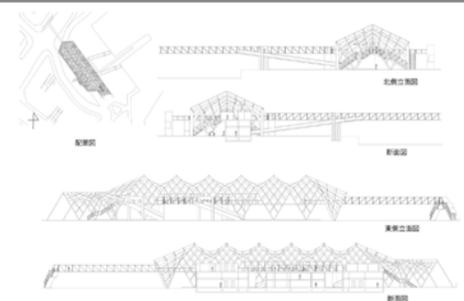
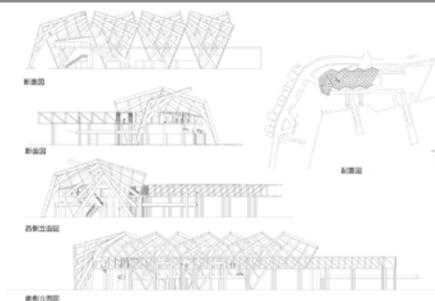


### 池山大照 + 春口綱慶



#### (設計概要)

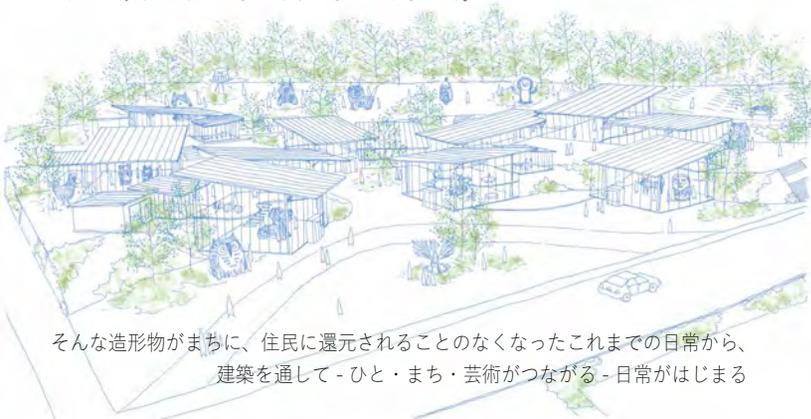
敷地：鹿児島市  
 地域地区：準工業地域(鹿児島港側敷地)、指定なし(都市計画区域外)(桜島港側敷地)  
 要求機能：待合スペース、観光案内所、物販店舗、市バス乗り場、事務室、会議室、災害用備蓄倉庫など



### 池山大照 + 春口綱慶

鹿児島県出水郡長島町。

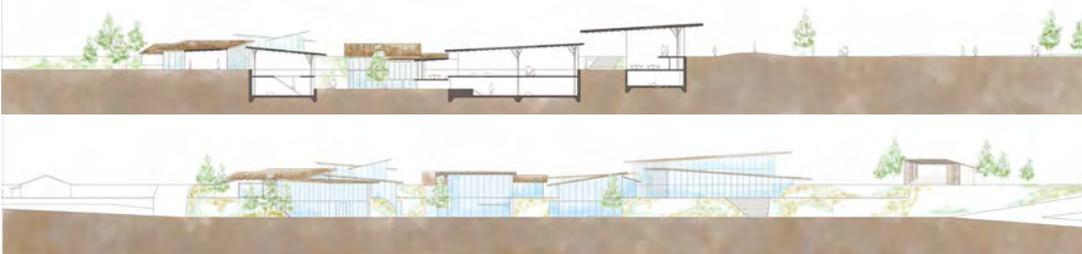
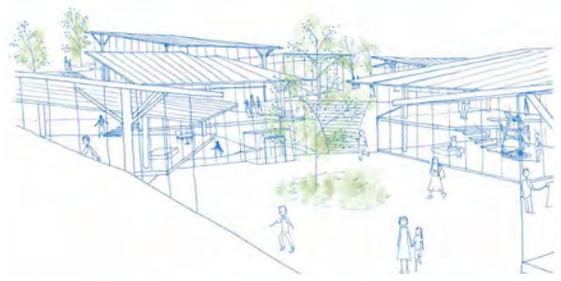
そこには、30年近く続く「ながしま造形美術展」というお祭りがある。集落ごとに、思い思いの造形物を住民みんなで作る風景は今も昔も変わらない。そんな島の住民の交流から生まれた、思い入れのある造形物たちは、いつしかお祭りのためのものだけになってしまった。



そんな造形物がまちに、住民に還元されることなくあったこれまでの日常から、建築を通して -ひと・まち・芸術がつながる- 日常がはじまる



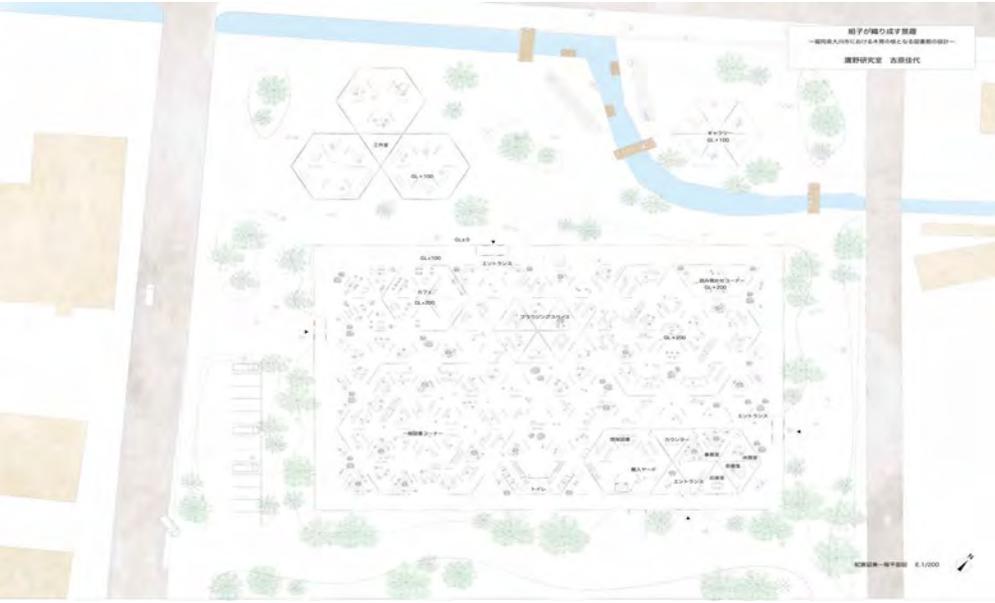
現在のながしま造形美術展の作品は、買い手がつかぬものやまちの通りぬきに設置されるものが稀にある程度で、確立された活用方法は存在しない。まちによっては管理体制ができておらず、そのまま廃棄することが多い現状がある。この状況を脱し、まちに造形物を還元できるように、ながしま造形館とまちなかベースの間に巡回展示の関係を構築する。



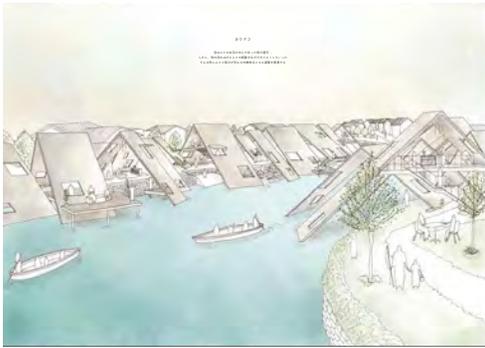
吉原 佳代

組子が織り成す景趣 - 福岡県大川市における木育の核となる図書館の設計 -

福岡県の南西部に位置する大川市は木の香りに包まれ、日本一の家具の町であるにもかかわらず、職人の技と心を後世に残すために必要不可欠な後継者を育成するシステムが構築されていない。そこで、子供の頃から木工に関する知識と技能を学ぶ「木育」を育むことにより、子供の健康を守るだけでなく、訪れる人の心も豊かになることを願い、新たな図書館と隣接する木工所を提案する。



カワドコ～日南市油津における新たな親水空間の提案～



日南市油津は宮崎県の南部に位置する港町である。その町を流れる堀川運河は、かつて弁甲材を港まで運ぶために開削され町の発展を支えた。

しかし、時代の経過とともに水質汚染の問題で埋め立てが行われ川は年々小さくなっている。そこで堀川と人々が交わるきっかけとなる川の駅『カワドコ』を提案する。様々な『床(トコ)』が油津の人々と堀川の関係性をつくっていく



自然に学ぶ『輪中教育』

橋口 里奈

大分市の東部に位置する高田地区は、二つの川に挟まれた三角州で、洪水と共に生活してきた。先人たちは堤防を築き、高い石畳の上に住宅を建て、さらには水防共同体として知育の連携意識を育てるなど、特徴的な文化の行も集落を形成してきた。洪水が去ると、上流から運ばれた超えた土が積み、豊かな土壌で農業を営んだ。

堤防や水門・樋門等を整備することで、水害の心配ない“安全な川”づくりが目指された。それにより川への安全度は大きく向上したが、水害への備えは十分とは言えない。

水と共に生きていく、新たなまちを提案する。



|  |                |  |
|--|----------------|--|
|  | 現在             | 堤防を建てることで、洪水の被害から身を守ってきたこのまち。しかしこれからは、“水と共存”することを目指す。                                      |
|  | 徐々に水を受け入れていく   | 輪中全体が水を受け入れ、他に見られない独特な景色を生み出す。   |
|  | 遊歩道でネットワーク構築する | 土地利用は、洪水によって運ばれてきた肥沃な土砂を利用した、水田や畑を行う。<br>人々は遊歩道でつながる高床式住宅に生活し、大規模な洪水時にはそれはフロアリングハウスへと形を変え、 |
|  | 大洪水の時は浮くことで対応  | 運地が多くを占めるこの土地では、多種多様な生物体が生息。<br>さらに、建物は敷地内で採取できる竹を主要材とし、地球環境への負荷も少ないまちとなる。                 |



通常時

洪水時